

環境研究総合推進費 令和7年度中間評価個票

研究課題番号	1RA-2402
研究課題名	ダウンスケーリングによる建物・街区レベルの社会経済・環境シナリオの構築
研究実施期間	2024（令和6）年度～2026（令和8）年度
研究代表機関名	統計数理研究所
研究代表者名	村上大輔

1. 評価結果

評価ランク：A

2. 委員の指摘及び提言概要

本来国レベルで与えられる社会経済シナリオ Shared Socioeconomic Pathways (SSP) を街区レベルに落とし込むことは有意義かつ重要な取り組みで、サブテーマ1も2も計画通りに進展している。ただ、学術的には高く評価できるが、政策応用の視点では不透明感があり、成果物である「データとWebツールの公開」を政策担当者の意思決定への取り込み方法の点で利用シナリオが弱い。都市の形成・成長に都市計画的なプランとその政治的判断、個々のプレイヤーの経済活動などの要因を考慮する必要があるのではないか。また、どこまでの精度で社会経済シナリオを描ききれるのか、あらかじめ代理変数モデルの限界も示せるとよい。テレワークやeコマースなど「従業者数」と建物の活動レベルが乖離するような事態における当手法の有用性についても考察してほしい。今後は、サブテーマ間の連携や研究成果の公表が望まれる。なお、査読付き国際会議の予稿だけでなく、国際的な学術誌での査読付き学術論文の発出を期待したい。